

平成 30 年度 仙台防災枠組講座シリーズ
「優先行動を学ぼう！～災害リスクを理解する・共有する～」
各班ディスカッション内容

1 班

○現在取り組んでいること

- ◆災害について知る・学ぶ
 - ・サバメシ講座を受講したり、企画したりする
 - ・被災地や震災遺構である荒浜小学校を見学する
 - ・外国人の方を対象とした講演会を開催する
- ◆コミュニケーション
 - ・日頃から地域、町内会の中でコミュニケーションをとる
 - ・聴覚障害者の方とのコミュニケーションのため、手話を勉強する
 - ・地域に住む一人暮らしの高齢者の住居を把握する
- ◆防災訓練
 - ・毎年地域で行う避難訓練を開催する
 - ・避難所運営マニュアルを作成する

○これから取り組みたいこと

- ◆防災について他の人に伝え、一緒に考える
 - ・身近な友達や一般市民の方に防災について伝える
 - ・旅行者対策、インバウンド対応を考える
 - ・全国へ仙台の防災について発信する
 - ・災害弱者の支援について、お互いに助け合う気持ちを持つ
 - ・女性の目線を大切にする
 - ・男性・女性にかかわらず、人として助け合う

2班

○現在取り組んでいること

- ・防災訓練を実施する
- ・防災グッズや備蓄品のチェックを行う
- ・地域の危険箇所や、自宅から避難所までのルートを確認する
- ・災害時の安否確認方法を確認しておく
- ・家具の転倒防止対策を行う
- ・民生委員を巻き込み、日頃からの地域でコミュニケーションをとる
- ・町内会とお店や病院などの災害時の関わり方について考える

○これから取り組みたいこと

- ・災害時に、避難所まで食料を取りにこられない人の対応を考える
- ・町内会とスーパーが連携し、多めに水や食料の備蓄をする
- ・要援護者の支援として、流動食を備蓄しておく
- ・過去に起こった災害について、地域で語り伝えるイベントを開催する

3班

○現在取り組んでいること

◆災害について学ぶ

- ・災害時にやらなければならないことを知る
- ・防災のイベントに積極的に参加する
- ・特に、土砂災害について学ぶ

◆地域での取り組み

- ・町内会で防災訓練を実施する
- ・町内会と小学校が連携して防災訓練を実施する
- ・防災マニュアルの作成

◆防災について伝える

- ・区民まつりで防災クイズのブースを出す
- ・中学生を対象とした防災キャンプを開催する
- ・「女性と防災まちづくり」ミニイベントで自分の経験を伝える
- ・障害者対応について、東日本大震災の経験を生かし全国組織を立ち上げる

○これから取り組みたいこと

◆地域での取り組み

- ・防災訓練を地域に定着させる
- ・大雨時の対応について考える
- ・地域で活動が続けていくために健康でいる

◆障害者とのつながり

- ・多目的トイレを作る
- ・要支援者に対する体制づくりを行う

◆外国人と関わる

- ・地域に暮らしている外国人とコミュニケーションを取る
- ・外国人の知り合いや友達に、防災に関するハンドブックなどを渡す

4班

○現在取り組んでいること

◆家庭（自助）

- ・災害時の安否確認方法を話し合う
- ・備蓄すべきもの（食糧・常備薬など）を確認する

◆地域（共助）

- ・町内会での防災訓練・防災講座を開催する
- ・通学路の確認・防災マップの見直しのためまち歩きを行う
- ・地域で災害弱者を把握する
- ・町内会の集会所を避難所として準備する
- ・町内会としての防災用品を用意する
- ・避難所運営マニュアルを用意する
- ・地域の中で、防災のキーマンどうしが連携する

○これから取り組みたいこと

◆地域力を高める

- ・一人住まい世帯を把握する
- ・女性の視点での防災力アップを目指す
- ・連合町内会の中でSBLを組織化する
- ・町内会活動を魅力的にして、多くの人に参加してもらえるようにする
- ・運動会やお祭りなどのイベントに防災のメニューを積極的に入れる

◆仙台からの発信

- ・研修などの機会で、講座で学んだことを発信する
- ・県外のステークホルダーと連携する
- ・東日本大震災を経験した若者の声を聞き、発信の支援をする
- ・世界に対して発信していく内容を考える

5班

○現在取り組んでいること

◆自助

- ・初めての場所に来たら天井などの安全確認を行い、危ない場所にいることを避ける
- ・防災グッズを持ち歩く
- ・救命講習を定期的にする

◆地域防災力の向上（共助）

- ・町内会で防災訓練を行う、参加する
- ・福祉施設での災害対策訓練を行う
- ・防災カルタを実施する
- ・SBLの支部活動を行う
- ・有志で東日本大震災を忘れない集いの会を開く

◆情報を得る、発信する

- ・防災のイベントに参加し、最新の知見を入手する
- ・災害を語り継ぐプロジェクトに参加する
- ・福祉施設間の連携作りを行う
- ・東日本大震災の経験をブログに書く
- ・防災情報を Facebook で発信する

○これから取り組みたいこと

◆自助を高める

- ・水や食料など、家庭内の備蓄を充実させる

◆共助

- ・町内会の防災訓練を充実させる
- ・町内会にSBLの活動を浸透させる
- ・小学生や老人まで年齢を問わず、防災についてのディスカッションを行う

◆情報を得る・発信する

- ・新しいハザードマップを入手する、説明会に参加する
- ・東日本大震災の経験を英語でブログ化する

6班

○現在取り組んでいること

◆避難訓練等

- ・町内会で避難訓練を実施する
- ・地域で避難場所を確認する
- ・地域の高齢者が避難場所まで歩いて行けるか確認する
- ・毎月 11 日を防災・減災の日とする

◆日頃の備え

- ・家族や近所で連絡網の確認をする
- ・家具の位置を安全な場所に変更する
- ・セミナーに参加し、常に最新の情報を学ぶ
- ・仕事を通して復興や防災に携わる

◆情報発信

- ・避難所運営の手順を確認し共有する
- ・避難所の場所を印刷して、多くの人が見えるところに掲示する
- ・防災情報について A 4 ・ 1 枚にまとめた印刷物を配布する

○これから取り組みたいこと

◆学びの機会

- ・学校教育などを通じて、次世代へ防災意識を継承していく
- ・防災に関する出前講座の開催

◆情報共有

- ・町内会全体で防災意識を向上させる
- ・近隣町内会と連携・情報交換を行う
- ・多くの住民に防災訓練に参加してもらう
- ・災害時要援護者の支援について考える
- ・町内会で災害時に連絡を取り合える無線機を用意する
- ・SNS で防災情報を発信する

◆連携する

- ・近所のスーパーと防災について連携する
- ・次回講座にも参加し、様々な人と話し合う

今村先生より講評

今回の講座は「災害リスクを理解する・共有する」というテーマで開催しました。まず、最も良かったと感じたのは、皆さんが自分の地域の危険箇所など、地域の災害リスクについてしっかり理解されていることです。日頃から身の周りに気を付けるべきというご意見もありました。大阪地震で問題になったブロック塀のことや、西日本豪雨の事例なども参考にしながら、あらためて地域の中での点検を行っていただくと良いと思います。ハザードマップについては、ぜひ最新版の「仙台防災タウンページ」を利用していただければと思います。

区民まつりやクイズ、防災キャンプ、防災運動会など、地域のイベントの中に防災を取り入れるという意見も良かったと思います。特に「防災運動会」は、皆さんの地域でもいかがでしょうか？ 運動会は楽しく、競争意識もあって盛り上がり、クイズや防災食など様々なコンテンツを入れることもできます。県内の企業や団体でつくる「みやぎ防災・減災円卓会議」の中でも防災運動会を実施し、大変盛り上がりました。

スーパーを巻き込むというアイデアもいただきました。従来、防災は行政中心に行われていましたが、災害対応には共助がとても大事です。草さんの発表の中でもお話いただきましたように、地域企業さんなどにも相談できることがあるかもしれません。災害時に備えて、物資やサービスなど協力を募ってみることも良いと思います。

情報発信や、震災の経験と教訓を伝える機会が大事というご意見もたくさんいただき、心強く感じております。我々も、今後もぜひその機会を作っていきたいと思います。